

りんご黒星病の開花期前後の防除対策

～ 発生状況に応じて防除薬剤を選択してください ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

前年は防除の徹底と生育初期の少雨等により本病の発生量はやや少なく推移した。しかし、少発生園地においてもE B I剤（D M I剤）耐性菌が確認されており、耐性菌発生園は拡大傾向にある。

りんごの初期生態は早く、かづの果樹センター（鹿角市）におけるふじの発芽期は4月2日（平年4月12日、前年4月11日）で平年より10日早く、果樹試験場（横手市）におけるふじの展葉期は4月5日（平年4月19日、前年4月18日）で平年より14日早かった。

子のう胞子の初飛散確認日は、かづの果樹センターでは4月8日（前年4月15日）で7日早かった。果樹試験場では3月26日（前年4月12日）で2週間以上早く、その後も降雨に伴って継続的に飛散している。

4月9日に仙台管区气象台が発表した1か月予報では、向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量はほぼ平年並と予報されている。

以上より、子のう胞子の感染時期は早いと推測され、発生時期が早まると予想される。また、開花期前後の薬剤防除は過去の発生状況に応じた薬剤選択を行うなどの耐性菌対策を確実に実施し、生育初期の発生量を抑制する必要がある。

2. 防除対策

1) 耕種的防除

発生時期は前年より早まると予想されるため、園地をよく観察し、発病葉等は見つけ次第摘み取り、焼却する。

2) 開花期前後の防除薬剤

①過去2年間に発生がなかった園地

開花直前と落花直後にE B I剤を使用できる。E B I剤を使用する場合は、耐性菌出現を回避するため、使用回数は年2回以内とし、必ず保護殺菌剤（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル、ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤等）を加用するか、これらの混合剤を使用する（表-1）。

②過去2年間に発生があった園地

開花直前にSDHI剤（オルフィンフロアブル等）、落花直後にはユニックス顆粒水和剤47を選択する。SDHI剤やユニックス顆粒水和剤47を使用する場合は、耐性菌出現を回避するため、必ず保護殺菌剤（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル、ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤等）を加用する（表-1）。

3) 散布の留意点

①開花期前後の散布間隔は10日以内とし、散布予定日に降雨が予想される場合は降雨前に散布する。

②散布量はりんごの生育に応じて十分量とし、散布ムラのないように丁寧に散布する。

4) 苗木の防除

苗木は先端部ほど保菌リスクが高いため、先端から1/2以上を切り詰めて定植する。防除は展葉後にベフラン液剤25 1,000倍液を散布する。耐性菌が感染しているおそれがあるためE B I剤は使用しない。

3. 資料

表-1 りんご黒星病の防除薬剤 (4～5月)

分類	農薬名	希釈倍数	散布時期	本剤の使用回数	各成分の総使用回数
O	ベフラン液剤25	1,000倍	展葉期	6回以内*1	ア
W	ストライド顆粒水和剤	1,500倍	展葉期～開花直前	2回以内*2	イ
E	パスポート顆粒水和剤	1,000倍		3回以内	ウ
W	デランフロアブル	2,000倍	展葉期～落花10日後	3回以内	3回以内
J	オルフィンフロアブル	4,000倍		3回以内	3回以内
J	ネクスターフロアブル	1,500倍	開花直前	3回以内	3回以内
J	フルーツセイバー	2,000倍		3回以内	3回以内
N	ユニックス顆粒水和剤47	2,000倍	落花直後	4回以内	4回以内
K	アンビルフロアブル	2,000倍		3回以内	3回以内
K	サンリット水和剤	2,000倍		3回以内	エ
K	オーシャイン水和剤	3,000倍		5回以内	5回以内
K	サルバトーレME	3,000倍		3回以内	3回以内
K	スコア顆粒水和剤	3,000倍	開花直前及び落花直後	3回以内	オ
K	トリフミン水和剤	3,000倍	の2回	3回以内	3回以内
K	ラリー水和剤	3,000倍		3回以内	カ
K	ルビゲン水和剤	3,000倍		3回以内	3回以内
K	オンリーワンフロアブル	4,000倍		3回以内	3回以内
K	インダーフロアブル	10,000倍		3回以内	3回以内
B・K	スコアMZ水和剤	500倍		3回以内	オキ
B・K	ブローダ水和剤	500倍		3回以内	カキ
B・K	テーク水和剤	600倍		3回以内	エキ
B・K	マネーヅM水和剤	600倍		3回以内	キク
B	アントラコール顆粒水和剤	500倍		4回以内	4回以内
B	チオノックフロアブル	500倍	開花直前及び落花直後	5回以内	ケ
B	トレノックスフロアブル	500倍	から落花25日後頃まで	5回以内	ケ
B	ジマンダイセン水和剤	600倍	10日ごとに3回	3回以内	キ
B	ペンコゼブ水和剤	600倍		3回以内	キ
D	オーソサイド水和剤80	800倍	開花直前～収穫前日	6回以内	コ
D・F	アリエッティC水和剤	800倍		3回以内	コサ

分類 B：有機硫黄剤

F：有機リン系剤

N：アニリノピリミジン系剤

*1 但し、開花期以降散布は3回以内

ア：イミノクタジン（8回以内（液剤及び水和剤は合計6回以内（開花期以降は3回以内）、塗布剤は2回以内））

イ：フルオルイミド（5回以内（開花前は2回以内、開花後は3回以内））

ウ：TPN（3回以内）

オ：ジフェノコナゾール（3回以内）

キ：マンゼブ（3回以内）

ケ：チウラム（5回以内）

サ：ホセチル（3回以内）

D：ポリハロアルキルチオ剤

J：SDHI剤

O：ゲアニジン系剤

*2 開花前までは2回以内

E：有機塩素剤

K：EBI剤（DMI剤）

W：その他

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660

秋田県果樹試験場 TEL 0182-25-4224

かづの果樹センター TEL 0186-25-3231

掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>